

## 「異文化を繋ぐ懸け橋」

Wojciech Jedynek

コミュニケーションは、人間が存在するうえで基本的な行動・言動であり社会作り・人間どおしの協力に不可欠な要素です。『口で言うのは簡単ですが』・・・。

どんな話題でも上手に話せる人がいれば、携帯電話の画面をじっと眺める人もたくさん見かけます。進化した今の社会では言葉をかける事がやりにくくなるばかりです。

異文化どころか自分の文化さえコミュニケーションが何て難しいのだろうと思ってしまう事があります。

しかし、(時々、) 静かに見える話し相手が自分の趣味について話しかけると、まるで別人になったかのように腹を割って打ち明けてくれます。それはいつも私にとって魅了的に感じ、とても印象に残ります。

ここで私が言いたいのは、情熱的な趣味は対人関係における最良の懸け橋だということです。私の場合、その役割を果たしたのが将棋なのです。ご存知のとおり、将棋はチェスに似たゲームですが大きな違いがあります。それは、相手の駒を捕まえたら自分の駒として使えることができます。

このルールこそが将棋の楽しさと醍醐味だと私は思っています。

将棋は、ダイナミックで脳を使うゲームですが、私にとっては日本人とのコミュニケーションをとる懸け橋となりました。

二年前に将棋ヨーロッパ選手権に出たことがあります。その時、初めて日本人と日本語で話す機会がありました。そのうえ女流棋士である北尾まどかさんと色々な面白い話がありました。たとえば、ある将棋好きな夫婦は喧嘩の勝敗を決めるためになんと将棋を指すそうです。もう一つの例を挙げると、昨年マドリッドで行われた国際情報学会のランチの時、ある名古屋の大学教授に出会い話しをしました。初めは言葉の壁で会話がぎこちなかったのですが、お互いの趣味が将棋と分かると会話が弾み、その結果、次の講義開始時間となってしまいました。私はスープを飲み忘れ、教授はコーヒーを半分しか飲むことができませんでした。でも、私がとても嬉しく思ったのは、教授がこのマドリッドの学会で、私と将棋の話をしたことが一番思い出になったと言ってくれたことです。

話しをまとめます。漫画、生け花、柔道といった共通の趣味が異文化の人間を繋げる懸け橋になるということです。

私の場合は将棋がこの懸け橋となりました。

皆さんも情熱的な趣味を持ってコミュニケーションを深めて下さい。